

松阪市子ども支援研究センターだより

E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>

松阪教育支援センター「鈴の森教室 1・2」TEL 26-1900 FAX 26-1901 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp
そだちの丘 育ちサポート係 TEL 30-4410 FAX 30-4433 E-mail: sodachi.sec@matsusaka.ed.jp

一年間、ありがとうございました



本年度も、あとわずかとなりました。この一年間、「子ども支援研究センターだより」をご愛読いただきましたみなさま、ありがとうございました。センターからは、このたよりを通して、研修講座や書籍の紹介をはじめ、様々なセンターの情報や私の勝手な思い等を発信させていただきました。

たよりを読んでいただいた方から、「素敵な言葉があったので切り取って残してあります。」といったことを聞かせていただいたときは、読んでいただいている人がいるという実感を得るとともに嬉しさを感じました。

私は、10年前に長期研修員として、1年間、子ども支援研究センターに勤務させていただいておりました。その時と比べて、センターの事業が大きく様変わりしてきており驚きました。その頃はまだなかったICTによる情報化教育が導入されてきたこと、「いっぽ」教室及び「ふたば」教室の運営をはじめ、外国人児童生徒教育の推進や特別支援教育の推進がセンターの事業に位置づいてきたこと等です。また、不登校児童生徒が増加をしており、「鈴の森教室」の需要度が増していることや電話や面談による教育相談の件数も増えてきており、課題が多岐にわたっているのを感じております。

私は、本年度、当センターに勤務させていただき、幸いにも夏季休業中に実施しました教職員研修講座の20講座に参加させていただくことができました。教員になってから初めての経験です。ここに勤務させていただいたからこそ出来たことですが、様々な教科・領域の講義から多くの学びを得ることができました。参加してみて講座からたくさんの学びがあることを実感いたしました。若い頃から、もっと積極的に講座に参加しておけばよかったと後悔しております。無料で受講できるのですから、みなさんもどしどし参加してください。

最後に、松尾芭蕉が説いた蕉風俳諧の理念でもあります「不易流行」という言葉を大切にしながら、これからも皆様とともに、子どもたちにとってより有益なセンター事業となるように、事業内容の改善をはかりながら努力してまいりたいと思います。

本年度から、育ちサポート係も当センターの所属となり、16人のメンバーとカウンセラー相談員の3人を加え、総勢19人でセンターの事業をすすめてまいりました。

一年間、皆様にはセンターの事業にご協力とご支援をいただきまして、本当にありがとうございました。4月から、勤務場所が異なる者もいるかと思いますが、引き続き、よろしく願います。

(所長 小筆 邦昭)

子ども支援研究センター研究集録

2人の長期研修員が、市内の小中学校にご協力いただき取り組んだ研究を、研究集録にまとめました。



研究集録 第133集

「中学校における、考え、議論する道徳科の授業づくり」

「考え、議論する道徳」とは、生徒が道徳的問題について、自分ならどうするかと主体的に考え、意見を交流する中で、多様な考え方、感じ方と出会い、人間としての生き方について考えを深めていく学習です。

本研究では、中学校1校に協力を依頼し、生徒が多様な感じ方や考え方と出会い、議論する中で考えを深めていく「考え、議論する道徳」の授業を行うために、話し合いや資料の提示方法を工夫し、検討しました。

資料の提示方法を工夫することで生徒に考えさせたい部分を明確にできることや、課題により4人班での話し合いを取り入れることで一人ひとりがしっかりと意見を伝え合うことができることなど、一例として示すことができました。

中学校において「特別の教科 道徳」は、平成31年度に全面実施となります。本研究を指導資料の一つとして活用していただければ幸いです。

(長期研修員 近藤 恵子)

研究集録 第134集

「読書活動の充実をめざして」

—地域、家庭と連携した読書活動を通して—

学校、地域、家庭では、子どもの読解力、表現力などを養うための読書活動が推進されています。

本研究では、読書活動の中で、学校における子どもの読書活動、学校と地域が連携・協力した読書活動、学校と家庭が連携・協力した読書活動に着目し、市内の小学校5校において、調査、研究を行いました。

学校において、朝の読書活動などの多様な読書活動を行うことで、子どもの読書活動への意欲、関心を高めることができます。また、学校が地域、家庭と連携・協力して学校図書館の整備等を行うことで、子どもの読書活動が一層充実することが分かりました。

本集録を読書活動の楽しさを伝えていく資料として活用していただけたら幸いです。

(長期研修員 木村 弘孝)